

フナジル岩手県人会

ふるさと岩手だより ①

提供 岩手日報 2014年10月発行

FURUSATO IWATE DAYORI

2014年9月11日は、東日本大震災から3年半。犠牲者は6月現在15,889人 / 行方不明2,609人。各被災地では様々な問題と戦いながら着々と復興への道を歩んでいる。が、様々な問題で復興が遅れている。特に福島は原発事故処理問題で、住民や町が他の地で避難し行政が行われている。本当に気の毒だ・・・ そのような中、時間が経つと共に大震災そのものが忘れられようとしている。風化させてはならないと願いつつ・・・

去る8月20日記録的な大雨による広島市の土砂災害は72名の犠牲者があった、広島県人会では義捐金で母県を支援しようと、一般に広く呼びかけている。当会では9月1日ビンゴの売上金から早速皆さんの善意を広島県人会へ届けたことを報告します。

Passados 3 anos e meio do Higashi NihonDaishinsai (Tsunami), que deixou 15889 mortos e 2609 desaparecidos, algumas regiões ainda não foram totalmente reconstruídas devido a intermináveis discussões entre os desabrigados e o governo. Estamos torcendo para que a solução dos problemas não demore, pois o tempo tende a nos fazer esquecer. No dia 20 de Agosto, fortes chuvas provocaram deslizamentos na cidade de Hiroshima, fazendo 72 vítimas fatais. O Hiroshima Kenjinkai do Brasil iniciou campanha para arrecadar doações para as vítimas. O IwateKenjinkai foi o primeiro a fazer a doação. O dinheiro foi arrecadado no Bingo realizado na Confraternização entreassociados no dia 31/08.

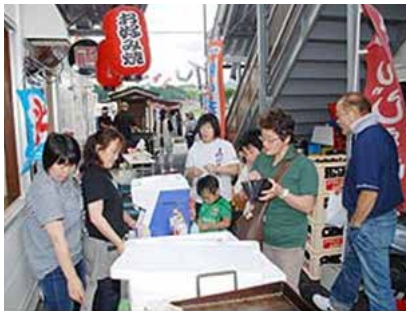
被災地を歩く

(期待高まる本設店舗・山田町中心部)

仮設商店街の営みが続く山田町中心部。JR山田線陸中山田駅(休止中)周辺は新たな市街地形成に向けた土木工事が本格化し、工事車両が行き交う。単独の仮設店舗を構える居酒屋や事業所も増え、再生に向かう力を感じさせる。

役場近くの八幡通り商店街に向かうと、2坪ほどのプレハブが目に入った。中をのぞくと子どものころから変わらない定番の駄菓子がぎっしり。昨年4月に滝沢市のグループが被災地支援としてオープンさせた。

店番をする甲斐谷ミヤ子さん(78)は「仮設住宅にいるより断然いい。大人も懐かしがってくれる」と笑顔を見せる。壁には子どもたちの落書き。かさ上げ工事に伴い移転が予定されているが、多くの人に愛される場所になっている。



14日は約30店舗が参加した「100円商店街」の開催日。各店お薦めの100円商品を店頭並べ、新規顧客を開拓しようと企画した。昨年12月の初回に比べて人出は少なかったというが、活性化を図ろうとする意気込みが感じられた。

本設の商店街は陸中山田駅周辺と国道45号沿いに計画。駅周辺は2・3ヘクタールを事業区域とする津波復興拠点整備事業を導入し、共同店舗と個別店舗合わせて約30業者が出店を予定



この記事は、会員皆様へ母県ふるさとのニュースをお伝えしたいと、岩手の新聞「岩手日報社」より、許可を得て掲載しております。

県内各市町村のニュースを掲載したいのは、山々ですが紙面の都合上全域を掲載出来ません。 あしからず

東日本大震災から3年余 被災地は今・・・

東日本大震災から3年3カ月が過ぎた。被災地は何か変わり、何が変わっていないのか。本紙記者が震災直後に取材した現場を再訪する「被災地を歩く」。前回ルポから1年2カ月。4度目の再訪で見えてきた被災地の「今」を伝える。

Área próxima da Estação de trem de Yamada, passados 3 anos e 3 meses do Higashi NihonDaishinsai (Tsunami) pouca evolução na reconstrução.



する。町は本年度中に造成を終え、2015年春から建築工事に着手できる事業スケジュールを立てる。

大手書店の大手恵美子さん(50)は駅周辺に本設店舗を建てる。現在の仮設店舗は商品数も限ら

れ、書店経営にとって制約は大きい。「仮設住宅から買い物に来てもらうのは難しいと感じている。住宅再建が進み、自分の足で出歩いて買い物ができるようになってほしい」と願う。

一方、国道45号沿いの商店街は土地区画整理事業区域内にあり、新生やまだ商店街協同組合(昆尚人理事長)の9業者程度が出店を計画。交通量の多さや隣接するスーパーとの相乗効果を狙う。用地交渉の遅れから本設店舗の営業は15年夏以降になる見込みだ。

事業区域は災害危険区域にあり、かさ上げは予定されていない。非常時の避難態勢や駅周辺商店街との連携が焦点になる。写真店を経営する昆理事長(39)は「本設店舗ができることで、町民にも復興が進んでいることを実感してもらえと思う」と気持ちを奮い立たせる。

震災から3年3カ月余り。店主は市街地のにぎわい復活を目指し、たくましく営業を続けている。支え合い、前を向く力に変わりはない。復興事業の遅れが懸念

される中、まちの魅力を創出する店主の思いを届けたい。(宮古支局・八重樫和孝)

山田町の商工業者の状況 町商工会には408会員(6月1日現在)が加入。事業所が被災した337会員のうち、営業再開は60・5%の204会員。廃業は117会員、転出は6会員、営業再開の未定は10会員となっている。(2014.6.19)

【写真④】=役場屋上から市街地中心部を望む。仮設店舗が営業を続ける中、土木工事も本格化してきた=16日、山田町八幡町】

【写真左段④】=八幡通り商店街の100円商店街。にぎわい創出に一役買った=14日、山田町八幡町】

【写真左段⑤】=震災直後に大規模火災に見舞われた山田町中心部=2011年3月12日午前4時40分】



(YAMADA) Pessoas se aglomeram para comprar doces tradicionais, nas lojinhas. Provisórias (temporárias) na HachimanDoori, rua que fica próxima da Prefeitura da cidade.

大槌の産業集積地、9月使用開始 自治体整備では初

大槌町は25日、被災事業者らの本設再建用地として貸し出す「新町（しんちょう）地区産業集積地」について、9月から使用開始する方針を入居予定事業者への説明会で示した。県などによると、自治体が整備した産業用地の使用開始は被災3県で初めてとなる。集積地は同

町新町の約1万5千平方メートルで5区画整備し、うち1区画を9月下旬から、残り4区画は10月から使用開始する。



現在仮設商店街で営業する店舗など19事業者が入居予定。業種はサービス業や小売業、建設業などさまざまで、それぞれ約40～4千平方メートルの敷地が用意される。使用料は固定資産税相当額として、1千平方メートルで年間3万～5万円程度。

町は説明会で▽災害危険区域であり住居などの建築は禁止▽盛り土など地盤面の高さの変更禁止▽使用許可申請にあたり設計図面なども提出する一などの条件を示し、協力を求めた。参加者からは「地盤強度は安全か」などの質問が出た。新町地区に入居予定の清掃業の男性（55）は「いつまでも仮設ではられない。人、物、資金は課題だが、新しい規模に応じてどんどん伸ばしていきたい」と期待する。【写真＝9月から使用開始する新町地区産業集積地を下見する入居予定事業者ら】（2014/08/26）

海女の素潜り実演スタート 久慈、観光客から歓声

久慈市宇部町の小袖漁港で1日、今シーズンの海女の素潜り実演が始まった。予約客ら約130人でにぎわい、地元関係者は「あまちゃん人気」継続へ決意を新たにした。「小袖北限の海女の会」の太下成子さん（66）と欠畑サチ子さん（71）が伝統の技を披露。水温13度と肌寒かったが、採ったウニを掲げると、観光客から拍手が送られた。

フランス・パリ在住で、千葉県松戸市への帰省に合わせて訪れた女性（44）は「フランスで『あまちゃん』のDVDを見ていたので、ぜひ来たかった」と興奮気味。この日は特別にウニの試食も行われた。



素潜り実演は9月までの夏季限定だが、既に平日の予約は約200件。一般客向けの定時の実演は5日にスタートし、土日祝日に1日3回を予定する。【写真＝採ったウニを団体客に見せる小袖北限の海女の会の太下成子さん（右）と欠畑サチ子さん】

（2014/07/02） (KUJI) Igual ao mostrado no seriado AMA-CHAN que passou recentemente no NHK, mergulhadoras enfrentam mar gelado (13 graus) para pegar UNI no fundo do mar.



東日本大震災から3年4カ月を迎えた11日、県内各地で遺族が犠牲者の冥福を祈った。陸前高田市米崎町の伊藤由美子さん（65）は同市米崎町の海沿いにある実家跡を訪れ、行方不明の兄鈴木信正さん＝当時（75）ら＝を思って花を手向け、静かな海へ祈りをささげた。「きっとまだ海にいます。私が立っていれば、兄さんも目印にして帰ってきてくれるのではないかと

思う。跡地に海に一番近い場所と、家族が語らう茶の間があった場所に献花した。月命日には夫（67）と共に欠かさず訪れる。

実家に暮らしていた兄夫婦は震災で行方不明に。義姉は3日後に遺体

「きっとまだ海に…」冥福祈る

震災3年4カ月

で発見されたが、信正さんはいまだに見つかっていない。「早く見つかってほしい。せめて骨の一本でも」。気丈にほほ笑むが、大切な人を思い続ける気持ちは変わらない。【写真＝震災で行方不明の兄を思い、実家跡地で手を合わせる伊藤由美子さん＝11日、陸前高田市米崎町】（2014/07/12）

(RIKUZEN TAKATA) Senhora Yumiko Ito (65) reza para o irmão desaparecido no Tsunami, exatamente onde existia a casa onde moravam.

全国のご当地麺を食べ比べ 金ヶ崎の産直で祭り

金ヶ崎町西根の産直かねがさき（伊藤雅章組合長）は27日、同産直前で恒例の「全国麺めん祭」を開き、大勢の家族連れらが全国47都道府県のご当地麺を味わった。

町産の青竹を使い、計58種類の麺を「流しそうめん風」に提供。町内の特別養護老人ホーム利用者も招待され、町民らは山形県のさくらんぼ麺や愛媛県のみかん素麺（そうめん）などを次々にすくい上げた。

ソフトボールの練習帰りに訪れた男子児童（永岡小4年）は「横浜の中華麺が気に入った」と満足そうだった。伊藤組合長は「日本の素晴らしい麺文化と産直のPRを兼ね、遊び心で続けてきた。町産のアスパラガスやブルーベリーを使い、いつか地元の麺を開発したい」と夢

を語った。【写真＝青竹の上を流れる全国のご当地麺を味わう子ども】（2014/07/27）

(KANEGASAKI) Festival Nacional de Soumen realizado no dia 27 de Julho, com a participação de milhares de pessoas



入植 50 年初の帰郷 岩手町出身・パラグアイの工藤さん

1964 年
に南米パラ
グアイに入
植し、現地
で農業を営
む岩手町
川口出身
の工藤忠
三（ちゅう
ぞう）さん



(74)が50年ぶりに帰郷している。「成功するまでは戻らない」との信念で、異郷の地で半世紀にわたって農地を切り開き、現在は大規模な営農に取り組む。一線を退いたのを契機に初の帰郷が実現し、親族との再会を喜びながら、古里での日々を楽しんでいる。

工藤さんは64年4月、妻利子さん（73）＝盛岡市玉山区出身、当時2歳の長女裕子さんと出国し、約2カ月の船旅を経てピラポ移住地に入植。その後、ブラジル国境にほど近いイグアス移住地に居を移した。

トマト栽培や養豚などに取り組みながら徐々に規模を拡大し、現在は約460ヘクタールで主に日本へ輸出する豆腐用の大豆などを作付けしている。

帰郷は長男の忠利さん（49）に経営を引き継いだのを機に実現。10日に来日し、実家などで過ごしている。古里について「昔はほとんどががやぶきの家だった。家の畑の近くに新幹線が通るなど環境ががらりと変わり浦島太郎のようだ」と驚く。

パラグアイでの生活は、言葉や環境、気候の違いなど多くの苦労も伴った。「ピラポでは農業で失敗もした。でも、成功したいと願ってやってきた。いろいろあったが地球の裏側に住んで良かった」と穏やかにほほ笑む。【写真＝50年ぶりに古里の岩手町に帰郷した工藤忠三さん（左）。弟や姉と思い出話に花を咲かせている】（2014/08/19）

(Paraguai Iguazu) Senhor Chuzo Kudo (74), que imigrou-se de Iwate para o Paraguai em 1964, pela primeira vez após 50 anos retornou a sua terra natal.

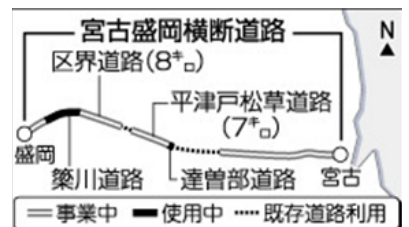
.....

宮古－盛岡間全て着工 復興支援道路、最後の起工式

「復興支援道路」に位置づけられる国道106号宮古盛岡横断道路（100キロ）の「区界道路」（8キロ）と「平津戸松草道路」（7キロ）の起工式は24日、宮古市区界の整備予定地で行われ、同横断道路の全区間が着工した。遅くとも2020年までに全線開通を目指し整備を進める。全線開通後は宮古－盛岡間が約1時間半で結ばれ、復興加速や災害時の物資輸送、救急医療向上などが期待される。国土交通省岩手河川国道事務所（盛岡市）が整備する。起工式には約120人が出席し、くわ入れなどを行い、工事の安全と早期完成を祈った。両道路は震災後の2011年11月に新規事業化した3区間（48キロ）のうちの2区間で、残りの宮古箱石道路（33キロ）は昨年着工済み。同じく復興支援道路の東北横断自動車道釜石秋田線、「復興道路」の三陸沿岸道路と合わせ、震災後に新規事業化した県内全14区間が着工した。

宮古市区界と盛岡市築川を結ぶ区界道路は急勾配やカーブが連なる区界峠を回避する「仮称・新区界トンネル」（4998メー

トル）と「同・築川トンネル」（1576メートル）を設ける。急カーブ23カ所を解消し、現行より4・7キロ、9分短縮する。総事業費は約370億円。



平津戸松草道路は宮古市平津戸と区界を結ぶ。トンネル5カ所と橋6カ所を整備し、急カーブ12カ所を解消。3・6キロ、6分短縮する。総事業費は約310億円。【写真＝関係者や地域住民がくわ入れを行い、工事の安全と早期完成を祈願した「平津戸松草道路」「区界道路」の起工式】（2014/08/25）

「国立」の座席、いざ北上へ

東京で630人が移設作業

【東京支社】解体される国立競技場（東京都新宿区）から座席6500席を無償で譲り受ける北上市は29日、現地で座席の取り外し作業を行った。県内外から集まったボランティア約630人の手で感動の歴史が詰まった青い座席を搬出し、2年後の「復興国体」の成功に向けて思いを一つにした。

作業開始の午前10時、雨模様だったスポーツの聖地に青空が広がった。県内から180人、県外から450人がスタンドに集合。工具でボルトを緩めて手際よく取り外し、記念にマジックで記名。2時間ほどで作業を終えると歓声と拍手が起こった。

座席は段ボール箱に梱包し、10トントラック3台で北上市へ出発。岩手国体の主会場地・北上陸上競技場への取り付けは2015年度を予定し、それまでは市内の公共施設で保管する。

作業後は、五輪の女子マラソンメダリスト有森裕子さんとトラックを走ったり、ピッチに「北上」の人文字を描き、最後の「国立」を満喫。有森さんは「この椅子に座る人が一人でも多くスポーツの楽しさや素晴らしさを通して元気になってほしい」と願った。

【写真＝国立競技場の座席の移設作業に汗を流すボランティアたち＝東京都新宿区】（2014/06/30）

(TOKYO) Voluntários de Iwate, retiram assentos do estádio Kokuritsu Kyogijyo (Shinjuku Tokyo) que está sendo reformado para os Jogos Olímpicos de Tokyo em 2020. Estes assentos ao invés de serem descartados, foram doados para cidade de Kitakami que os utilizará no novo estádio que esta sendo construindo na cidade para sediar os jogos regionais (Kokutai - Iwate) em 2016.



「世界一」の太鼓高らか 盛岡さんさ踊り開幕



第37回盛岡さんさ踊り（実行委主催）は1日、盛岡市中央通を会場に4日間の日程で開幕した。今年は過去最多の延べ256

団体が出演し、総勢約3万4500人が太鼓や笛の演奏、華麗な舞を披露する。

「サッコラー、チョイワヤッセ」。午前中の雨から一転、晴れ間がのぞいた初日の午後6時、大きな掛け声とともにパレードがスタート。ミスさんさ

秋晴れに山車8台がパレード 盛岡秋まつりにぎわう

300年以上の伝統を誇る盛岡秋まつりは14日、全ての参加山車が盛岡八幡宮から一斉に出発する「八幡下り」が行われた。16日までの日程が本格スタート。盛岡市内一円は、太鼓や笛、子どもたちの「ヤーレヤレ」の音が響いている。八幡下り出発約30分前、空が急に暗くなり降りだした大粒の雨。しかし再び日が差し、昨年より1台少ない8台の山車はそれぞれ一度掛けたビニールを急ぎ取り除いて、みこしや騎馬の列に続いた。15日は稚児行列、夕方に大通を練り歩く盛岡山車大絵巻パレードなど、16日は八幡宮での流鏝馬（やぶさめ）など

山田町の山田湾に浮かぶオランダ島の清掃活動は17日、現地で行われた。町内外の有志が雨の中、町の貴重な観光資源である同島の復活に向けて作業に励んだ。

約40人が地元漁業者らの船で同島に渡り、約1時間かけて鉄くずなどの漂着物を撤去した。活動終了後は食事などを通じ、参加者同士が交流した。



踊りが先導役となり、学校や企業など43団体が軽快な太鼓の音色と華麗な舞で魅了した。

さんさ踊りは6月29日、和太鼓同時演奏のギネスブック公認記録を奪還したばかり。「世界一」の太鼓パレードが多くの来場者を引き付けた。踊りの発祥地とされる同市名須川町の三ツ石神社の周辺住民らで構成する「三ツ石会」の吉田絵里さん（31）＝同市三ツ割＝は「世界一の気概を持って臨んだ。来年も踊り、地域の伝統を伝えたい」と笑顔を見せた。

【写真＝真夏の夜空に太鼓の音が響き渡った。世界一の太鼓パレード「盛岡さんさ踊り」が開幕した＝1日、盛岡市内丸】（2014/08/02）

（MORIOKA）Desfile de Sansa-Odori, maior festival (Matsuri) de Iwate que foi realizado nos dias 01 e 02 de agosto.

がある。

【写真＝豪華な山車が連なり、大勢の観衆でにぎわう盛岡秋まつり八幡下りパレード＝14日、盛岡市八幡町】（2014/09/15）



（MORIOKA）Festival do Outono (Aki Matsuri) Templo de Hachimangu, pessoas ajudam a puxar o DASHI, tradição de mais de 300 anos.

きれいなオランダ島取り戻そう 山田、有志が清掃活動

同島は東日本大震災で被害を受け、現在は自由に上陸できない状況にある。

清掃は昨年に続き2回目で、観光名所としての復活を目指すとともに、震災後に同町で活動したボランティアとの縁を強める機会として企画され、今回も町外のボランティア経験者が駆け付けた。

昨年も参加した名古屋市会の社員（37）は「ボランティアをきっかけに地元の人と友達になったことが、町に通い続けることにつながっている」と笑顔を見せた。

【写真＝オランダ島の砂浜で清掃に励む参加者】（2014/08/18）

（YAMADA-MATI）Cerca de 40 voluntários trabalharam na limpeza da Ilha Holanda situada na Baía de Yamada

赤花ソバ民話の里に彩り

遠野、国道沿いで満開

遠野市上郷町の休耕田（5800平方メートル）で赤花ソバ「高嶺ルビー」の花が満開を迎え、民話の里に彩りを添えている。

小ぶりな赤い花が一斉に咲いて涼やかな風に揺れ、観光客や地元住民、休耕田協の国道283号を通る運転手らの目を楽しませる。

休耕田を観光活用するため、遠野農林振興センター（山舘忠徳所長）と遠野馬振興会（菊池盛治会長）、近隣の夢産直かみごうが協力。初夏に農耕馬を使って土を耕し、関係者が種をまいた。

同産直に野菜を出荷する同市上郷町の農業宮沢静江さん（65）は「秋の新名所が生まれた。産直で一休みし、遠野の豊かな自然美を楽しんでほしい」と期待する。同センターによると、赤花ソバの見頃は



今月下旬まで。【写真＝休耕田の活用を目的に植えられ、見頃を迎えた赤花ソバ】（2014/09/16）（TOONO）Flor de Sobá, formam um imenso tapete, tingindo de vermelho a paisagem rural



「たかたのゆめ」実りの秋

陸前高田、復旧田で収穫

陸前高田市のオリジナルブランド米「たかたのゆめ」の刈り取り式は15日、東日本大震災で被災し、5月に初の作付けをした同市小友町

の復旧田で行われた。関係者ら60人は念願の実りの喜びを分かち合い、ブランドの全国発信へ意欲を新たにしました。

農事組合法人「サンファーム小友」（石川満雄組合長）が管理する水田で、戸羽太市長自らコンバインを運転。こうべを垂れた黄金色の稲穂を次々に刈り取った。石川組合長は「（震災から）4年目で営農再開し、実りの秋を迎えられて感激だ。全国からの支援、ボランティアに感謝したい」と述べた。

小友地区の水田は、震災で一面がれきで覆われた。農地区画を拡大し、復興工事で発生した土砂を使いかさ上げ。3月に約87ヘクタールが復旧し、5月に初めての田植えが行われた。

「たかたのゆめ」は市内54ヘクタールで生産し、今年は150トンの収穫が目標。地元のスーパーマーケット・マイヤでの販売や、同市のキャピタルホテル1000、盛岡市のホテル東日本などでの提供を予定する。

【写真＝復旧田に実った「たかたのゆめ」。関係者が喜びの稲刈りをした】（RIKUZEN TAKATA）A cidade inicia a colheita do famoso arroz Takata no Yume

わせ品種「さんさ」収穫始まる 奥州のリンゴ園

奥州市江刺区愛宕のリンゴ園「紅果園」で2日、わせ品種「さんさ」の収穫が始まり、赤く色づいた実が次々とかごに入れられた。

同日の県内は低気圧の影響で朝方に雨が降ったが、日中はおおむね晴れや曇りの天気。奥州・江刺の最高気温は28・4度（平年比1・3度高）。園内では従業員5人が作業に追われ、大きく育った果実を一つ一つ丁寧に摘み取った。園主の高野豪（つよし）さん（43）は「今年は色づきがいい。糖度もあり良い出来になった」と手応えをつかむ。収穫は1週間ほど続き、主に同区の江刺ふるさと市場などで販売している。今後はゴールドロマンやトキなどの収穫に入る。【写真＝赤く色づき、たわわに実ったリンゴわせ品種「さんさ」＝2日、奥州市江刺区愛宕】（2014/09/03）



（OUSHUU） A região de ESASHI inicia a colheita de maçãs do tipo WASE (SANSA)



KOUYOU 紅葉パノラマ広がる秋色 三ツ石山で見ごろ

八幡平市と栗石町にまたがる三ツ石山（1466メートル）は、山頂付近のミネカエデやハウチワカエデが色づき、紅葉のパノラマが広がっている。

22日は秋の冷たい風が吹き、厚い雲に覆われる不安定な天候だったが、時折日差しが差し込むとオレンジや黄色に染まる木々が一面のじゅうたんのように鮮やかなコントラストを描いた。

盛岡市西青山から訪れた登山者たちは「岩手の誇れる景色ですね」と満喫。八幡平市観光協会によると、今週いっぱいまで見頃が続くという。【写真＝白い雲と青空の下、一面に広がる鮮やかな紅葉＝22日、三ツ石山山頂】（2014/09/23）



Proximos Eventos do Iwate Kenjinkai

Viagem p/Cananéia

14/15/16/Novembro reserva ,até 24/10

Bônen-kai e Confraternização e aniversáriante

14/Dezembro/2014 Refeição Motiyori